会員各位

令和３年２月１日

特定非営利活動法人愛知県理学療法学会　役員選挙公報

特定非営利活動法人愛知県理学療法学会
選挙管理委員会 委員長 角谷幸宏

特定非営利活動法人愛知県理学療法学会定款に基づいて、役員を受け付けました。理事、監事ともに候補者数が定数を超えませんでした。特定非営利活動法人愛知県理学療法学会選挙に関する規定により、候補者全員が無投票当選となり投票は実施いたしません。
下記に、結果報告と立候補趣旨を掲載いたします。

記

理事　無投票当選者
（定数 10 名　候補者 10 名）

立候補順位	立候補者氏名
1	坂野　裕洋
2	壹岐　英正
3	大塚　圭
4	上原　徹
5	加藤　芳司
6	山下　豊
7	小川　智也
8	石田　和人
9	星野　茂
10	岸川　典明

監事　無投票当選者
（定数２名　候補者０名）

氏名　坂野　裕洋

勤務先　日本福祉大学健康科学部

立候補の趣旨
私はこれまで研修部員として、NPO 法人愛知県理学療法士会の研修事業に関わってきました。その中で理学療法士のリカレント教育のさらなる普及・推進の必要性を感じています。そこで、本学会の理事として運営に参画し、現状に即したリカレント教育システムの構築と啓蒙活動の促進を図りたいと考えて立候補します。具体的には、関連団体や会員の所属する愛知県下の関連施設などと協力・連携を図りながら、各養成施設における卒前教育と連動した愛知県独自のコアカリキュラムの作成を考えています。また、理学療法士に求められる多様化した社会のニーズに、どのような職場に勤務していても応じられるよう、基礎的ではありますが専門性の高い情報を、Webinar などを活用したアクセシビリティが高い方法で会員の皆様に提供できるように活動していきたいと考えています。

氏名　壹岐　英正

勤務先　渡辺病院

立候補の趣旨
この度理事に立候補しました，医療法人瑞心会渡辺病院の壹岐と申します． 私はこれまで研修部として平成 19 年より愛知県理学療法学会に関わらせていただきました．また病院勤務で臨床や卒後教育に関わりながら，3 校の理学療法士養成校で非常勤講師として卒前教育にも関わっています．その経験から卒前・卒後教育を一貫して行う必要性を感じており，一方で協会も新人理学療法士職員研修ガイドラインを作成しました．その中で NPO 法人の理学療法学術団体として，愛知県の理学療法士の資質向上に関わりたいという想いを胸に立候補致しました．先人が築いてこられた伝統を継承しつつ，新しい生活様式による制約に負けないために若い力を注ぎたいと思います．

氏名　大塚　圭

勤務先　藤田医科大学

立候補の趣旨
この度、愛知県理学療法学会の理事に立候補致しました藤田医科大学の大塚圭です。 私は、2019 年度から理事を拝命賜り、この約 2 年のあいだ、研究者育成委員会の担当理事として、本会にて初となる研究助成事業を携わらせて頂きました。本会では前例のない立ち上げの仕事でしたので、制度設計など苦労も多くありましたが、おかげさまで 2020 年度は、採択者の皆さまに助成金を交付させていただくことが出来ました。多くの会員の方に応募頂き、愛知県には、将来、有望な研究者となるだろう若手会員の方が、多くいらっしゃることをあらためて認識されられました。 私は、今期の理事のこの経験を生かし、是非ともこの研究助成事業をさらに拡大、発展をさせ、愛知県の研究者育成とともに、愛知県の理学療法の発展に貢献したいと考え、立候補致しました。 何卒、宜しくお願い致します。

氏名　上原　徹

勤務先 名古屋市立西部医療センター

立候補の趣旨
ＮＰＯ法人愛知県理学療法学会理事に立候補した名古屋市立西部医療センターの上原徹です。私は脊椎・整形外科疾患の急性期医療に携わり、治療および研究活動を行ってきました。 　現在、COVID-19 が猛威を振るい、急激な感染者増加や二次感染による医療従事者不足、救急や感染指定病院への患者集中による感染病床不足など、医療を取り巻く環境課題が指摘されております。リハビリテーション分野においても、感染症や感染予防に対する広い専門知識や治療技術が求められています。理学療法士として働いている場所「現場・臨床」でいかに価値「力」を生み出せるか、そして、その「結果」を示すことが出来るかが、今後の理学療法士としての課題となってきます。理学療法学術団体として知識技術の向上、研究活動の活性化を図るため努めて参りたいと思い微力ながら理事に立候補致します。どうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます

氏名　加藤　芳司

勤務先　社会医療法人宏潤会
大同病院 だいどうクリニック

立候補の趣旨

社会人を経て 30 代で理学療法士となり,地域,予防,健康増進,養成校教育,加えて学位取得等,様々な経験を通して歩んで参りました。失敗を繰り返しながらもここまでたどり着けたのも多くの方の援助なしにはありえず,キャリア後半に差し掛かり,社会貢献,人のために働くことを持って恩返しとしたいと考え始めております。

現在,産業理学療法部門の運営幹事を務めており,他の分科学会とともに,法人化を目指す事が決まっております。すなわち,今後さらに学術活動は重要視され,理学療法のエビデンスの蓄積が求められる旬を迎えています。

6500 名を超える県内会員の学術活動のサポートとともに,各分科学会と県士会の連携の橋渡し役の一助を担いたく立候補した次第です。

よろしくお願いします。

兼務先
名古屋平成看護医療専門学校

協会･県士会活動
産業理学療法部門 運営幹事(副代表)
学術局教育部 部員
名古屋ブロック(東)ブロック委員

氏名　山下　豊

勤務先　名古屋市立大学病院

立候補の趣旨
名古屋市立大学病院の山下と申します。理事に立候補させていただきます。 本学会の主たる目的はふたつ、すなわちひとつは県内理学療法士の教育、もう一つは学術活動と考えております。教育面については、卒後研修の充実を課題にあげます。資格職に対する社会からの認識の変化もあり、実習生（無資格者）の時期に一人一人の症例について深く追究することが難しくなっています。そこで、症例検討の活発化や症例を学会として積み上げていくシステムを築いていきたいと考えております。 学術面については、学術大会や学術誌のさらなる充実をあげます。理学療法の独自性を守りながら、医学の一部として自然科学に沿い、一方でリハビリテーションは社会的側面も含んでいることから人文社会科学も兼ね備えた学術活動を推進したいと考えております。

氏名　小川　智也

勤務先　公立陶生病院

立候補の趣旨
平成 19 年度から平成 28 年度までは愛知県理学療法士会の理事を努め、平成 23 年には第 21 回愛知県理学療法学術大会を大会長として開催させていただきました。平成 29 年度からは愛知県理学療法学会の理事を務め、令和元年度からは副理事長を拝命しております。 引き続き愛知県理学療法学会の理事として愛知県の理学療法士の学術的発展を目指し、理学療法士の方々の活性化を図り、臨床能力の向上に寄与していきたいと考えております。また、愛知県理学療法士会とも協調し社会的責任を果たす団体として発展させていきたいと思っております。以上の趣意にて今回、愛知県理学療法学会の理事に立候補いたしました。

氏名　石田　和人

勤務先　豊橋創造大学

立候補の趣旨
私は本学会の理事長として 2 年間、務めさせて頂きました。理学療法士の職域は、臨床、教育、研究、そのすべてが、COVID-19 という想像さえもしなかった魔物によって多大な影響を受けました。しかし、このようなことに屈して理学療法の発展を止めてはいけません。今、協会レベルでは、各専門分野の学会がそれぞれ法人化を目指し、学会連合としての組織体制を進めようとしています。つまり、全国規模の学会はより専門性を追求する方向です。これに対し、愛知県理学療法学会は、現場で働く理学療法士の学術研鑽、次世代を担う若手理学療法士の育成、また、我々が住んでいるこの地域に生きる理学療法学の発展などに寄与せねばなりません。全国学会が変わろうとすればするほど、この愛知県理学療法学会の存在価値が見いだされ、期待も高まるものと考えます。つきましては愛知県の理学療法士のために働きたいと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。

氏名　星野　茂

勤務先　蒲郡市民病院

立候補の趣旨
昨年度より愛知県理学療法学会では研究者育成事業の一環として、研究助成金制度を開始した。ご承知の通り当会は日本学術会議協力研究団体の指定を受けており、会員のより一層の研究活動の支援を行う目的で開始させていただきました。また、本会のメインイベントとも言うべき愛知県理学療法学術大会も 30 回の記念大会として開催します。本会は今後も学術研究活動を通じ社会に貢献できる理学療法士の育成、理学療法の発展を支援させていただきたく、引き続き理事として会員の先導役をさせていただきたく立候補いたしました。

氏名　岸川　典明

勤務先　愛知医科大学病院

立候補の趣旨
理学療法士は社会のニーズに応えるのが資格者としての義務と考えており、会員は自らにその責任を課せなければならない。協会は卒後教育の一環として生涯学習システムを構築し，都道府県士会はその指導下に生涯学習システム（新人教育プログラム）を開始することとなった。私は、このシステム運用当初より、県士会教育部長を務め新人教育プログラムを推進し、2000 年からは協会の生涯学習部員として生涯学習システムの普及に努めた。現在は、特定非営利活動法人愛知県理学療法士学会の副理事長として、事務局、学術局、教育局等の管理者としての理事長の補佐として会員の資質向上を図るべく本務に臨んでいる。学術大会、研修会など拡大発展を続ける中、また、未曽有の世界的災害における学術活動の在り方を再認識、再検討し本会の進むべき道をさらに考えていく所存である。